

第22回神奈川県美術展

■1期展：日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形＝61年10月14日(火)－10月26日(日) ■2期展：工芸・書・写真＝61年10月28日(火)－11月9日(日)
会場：神奈川県民ホールギャラリー 主催：神奈川県美術展委員会 神奈川県 巡回展：61年11月14日(金)－11月19日(水) 会場：厚木市市民ギャラリー



第22回神奈川県美術展

●
1期展／日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形

昭和61年10月14日(火)→10月26日(日)

●
2期展／工芸・書・写真

昭和61年10月28日(木)→11月9日(日)

●
会場／神奈川県立県民ホールギャラリー

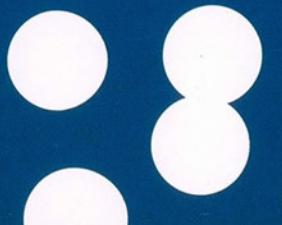
●
主催／神奈川県美術展委員会・神奈川県

●
入賞作品巡回展

昭和61年11月14日(金)→19日(木)

会場／厚木市市民ギャラリー

主催／厚木市・神奈川県美術展委員会・神奈川県

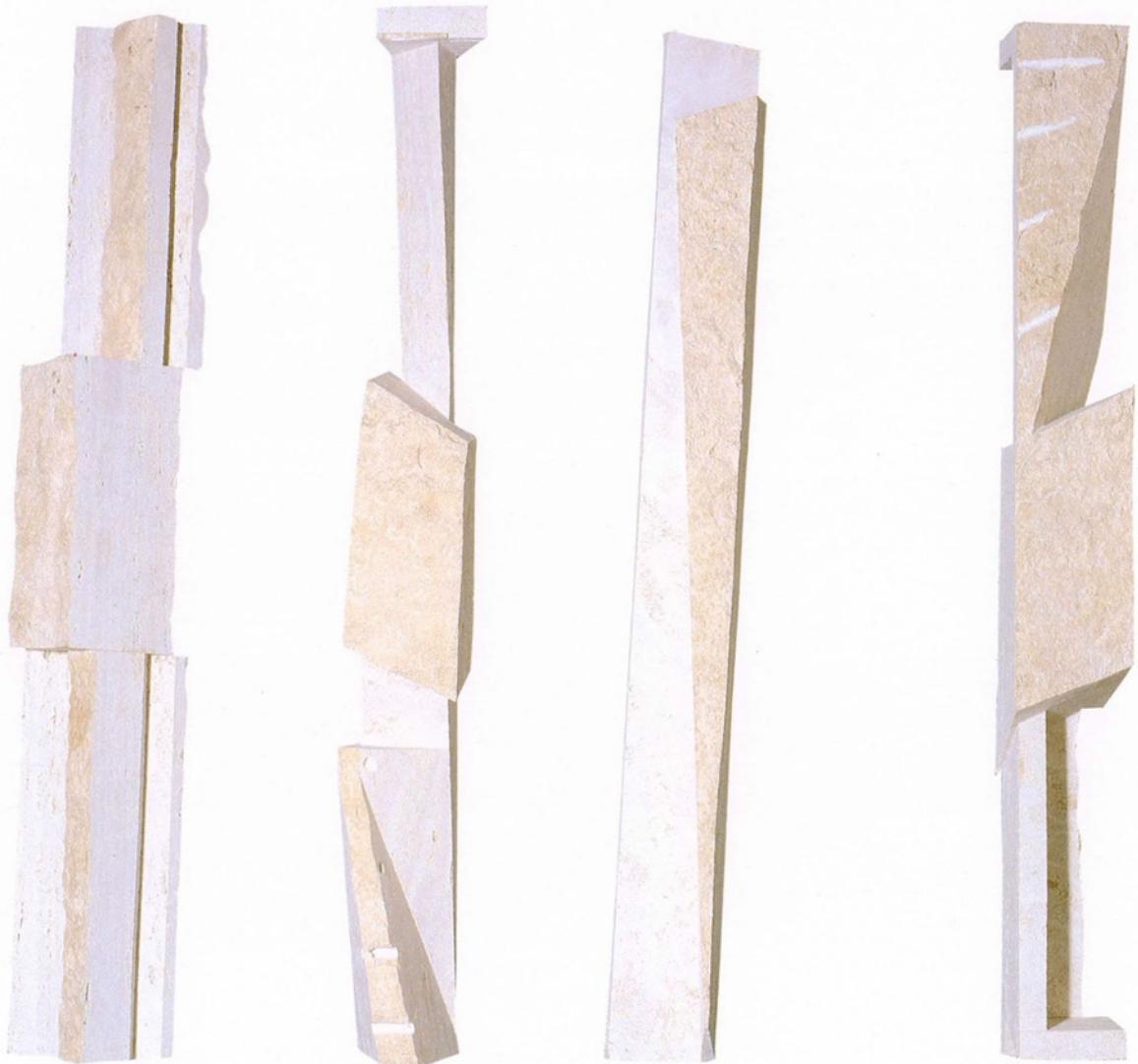


●日本画
●洋画
●版画
●彫刻
●立体造形

1期展・S61年10月14日→10月26日



大賞●会田富二男 駆けゆく母子像 (彫刻)



準大賞 ● 青木恵子 *コトバ以前* (立体造形)



特選●香川亮 奇妙な対話 (日本画)



特選●大久保俊夫 拡声器のある広場 II (洋画)



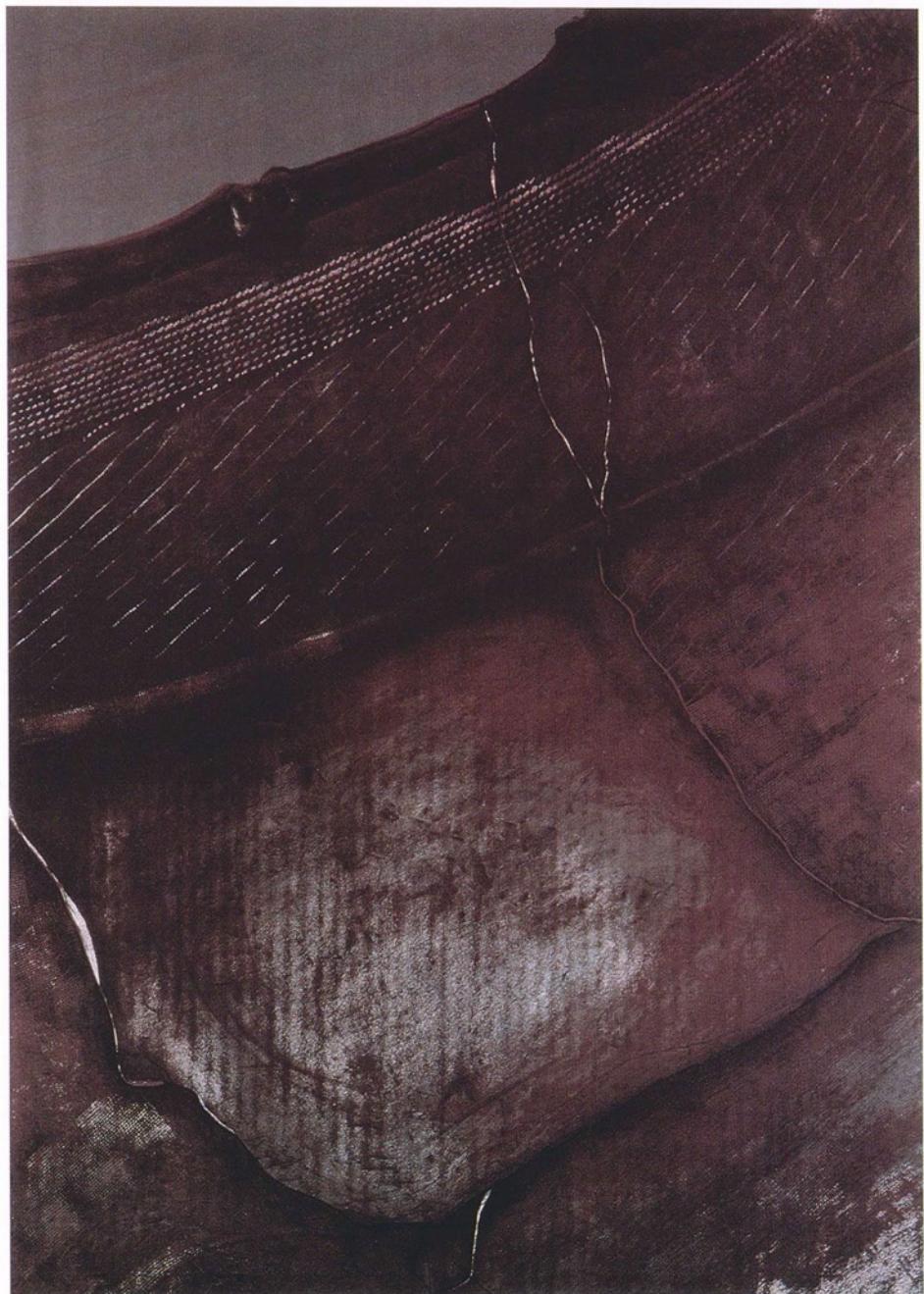
特 選 ●大庭明子 りんごの収穫 (版画)



県立近代美術館賞 ● 塩川高敏 樹映 (洋画)



美術奨学会賞 ● 岡崎孝彦 生の回帰 (日本画)



美術奨学会賞 ● 河口 聖 無題B (版画)



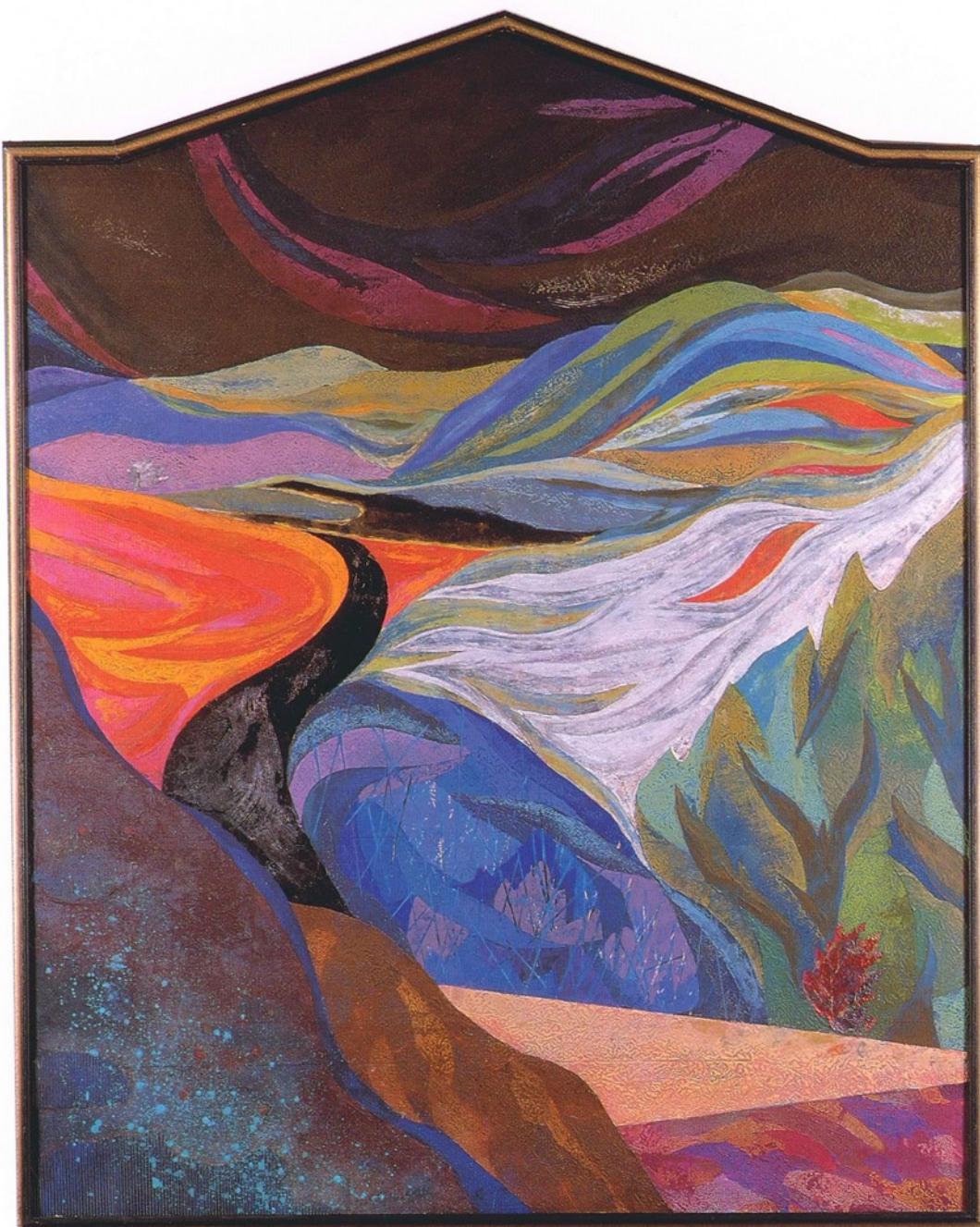
美術奨学会賞 ● 梅田勝裕 砂の女'86 (彫刻)



美術奨学会賞 ● 奠田俊三 ブッキラボー (立体造形)



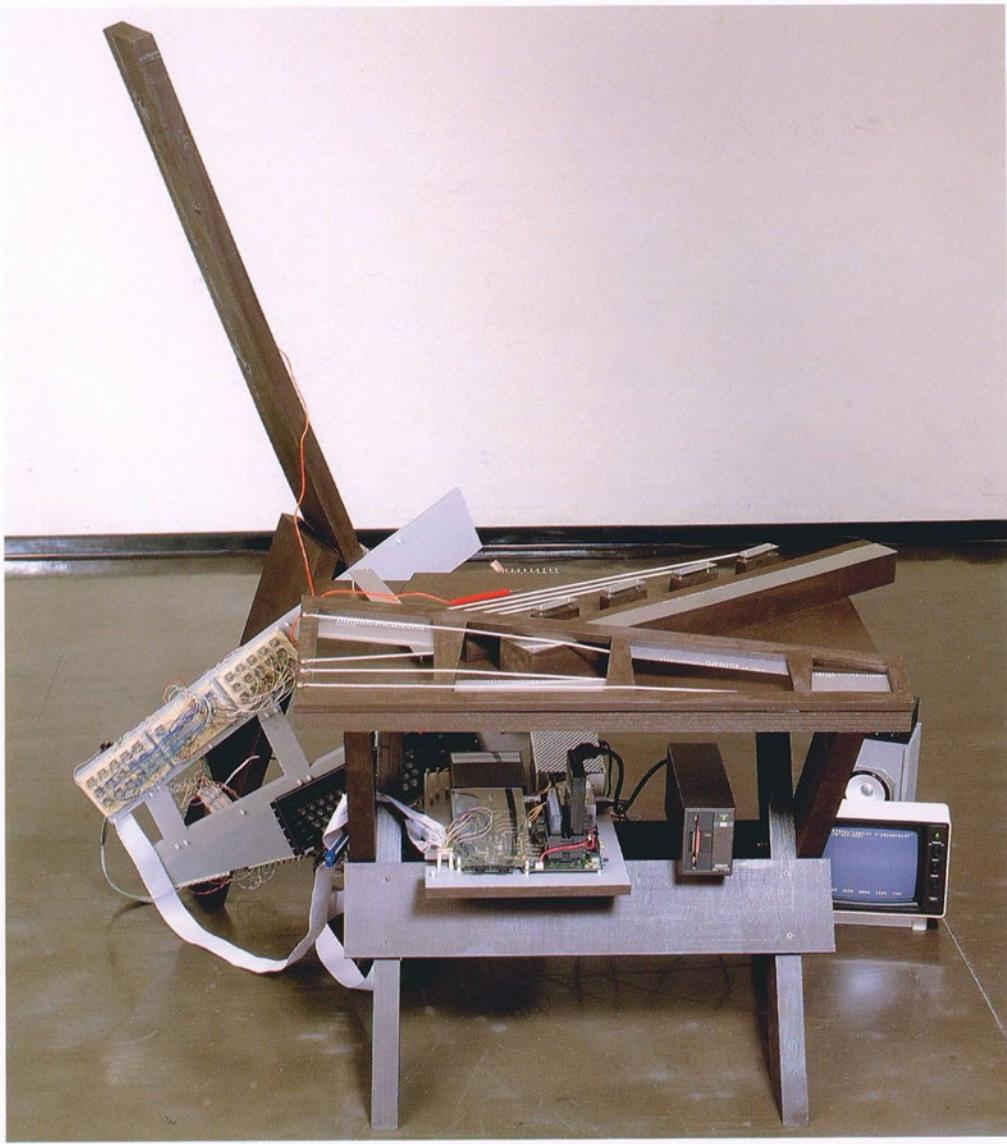
特別奨励賞 ● 北村さゆり commonness I (日本画)



特別奨励賞 ●井出文洋 風の彩—景— (日本画)



特別奨励賞 ● 西川淑雄 時の旅人達 (彫刻)



特別奨励賞 ● 津田佳紀 トロメタル—いわゆるカオスのターミナル— (立体造形)



特別奨励賞 ● 高橋洋子 WAVE (立体造形)

●受賞作品目録 〈日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形部門〉

●大賞

会田富二男 駆けゆく母子像〈彫刻〉

●準大賞

青木恵子 コトバ以前〈立体造形〉

●特選

香川亮 奇妙な対話〈日本画〉
大久保俊夫 拡声器のある広場II〈洋画〉
大庭明子 りんごの収穫〈版画〉

●近代美術館賞

塩川高敏 樹映〈洋画〉

●美術奨学会賞

岡崎孝彦 生の回帰〈日本画〉
河口聖 無題B〈版画〉
梅田勝裕 砂の女'86〈彫刻〉
窪田俊三 ブッキラボー〈立体造形〉

●特別奨励賞

北村さゆり commonness I〈日本画〉
井出文洋 風の彩—景—〈日本画〉
西川淑雄 時の旅人達〈彫刻〉
津田佳紀 トロメタルーいわゆるカオスのターミナルー〈立体造形〉
高橋洋子 WAVE〈立体造形〉

●入選作品目録

〈日本画〉

吉武千枝 Aterier
柳沢正人 メドウーサ
山崎洋子 聽く
角村孝則 迷宮
小玉文夫 群
笠井順子 光降る(秋あるいは夜)
小林千里 アイランド
村井俊二 臨界天
中村萬里 Déjà vu II
山下まゆみ 猫 2
飯野静江 創世一層
野崎丑之介 夜行
平岡栄二 遙かなる旅
勾坂均 過ぎ去った日々
大野廣子 位置
照井登紀子 CTA WAIK
松谷千夏子 新しい街、通り過ぎる風景
大滝昌也 羅漢残像
平子真理 海嘯
波多野杜邦 夢尽燈
加藤敏夫 細雨
上田貴子 日、暮れるまで
入江都賀 晚夏
佐藤潔 ノートより・星降る夜
小出繁弥 月光

〈洋画〉

松沢五男 抱擁II
瀧澤保美 Re-Nippon
小暮満寿雄 Fallasと中華街
飯田さち子 木馬回想
原秀一 時の跡
石川俊一 遙かな空へI
村岡千秋 飛行装置
三塙壽子 葛藤
河上明彦 時のCorridor遠い日々へ
千葉彰一 憋 86-2
杉本剛 夜曲
加藤幸寿 人間思考II
田中善隆 ビーチボールI
斉藤猛 視線
佃二葉 オクルキューブ3
加藤智雪 noon(真昼)
古怒田喜久枝 パリ
山田順子 1986 Untitled-a
古藤典子 Land fall 86-8
斉藤由美 S 100
青木孝 ラストロ
松浦昌明 SPACE XIII(白い空間)
三沢清太 反復(光と影B)
松本京子 会話a
武山祐子 街
小堀安代 残影A
菅野昌實 way(E)
斉藤守 夢
内田尚子 生命の内部で(樹)
蝦名協子 生(哀しみ)
水谷香織 卓上の静物(瞑想)

永山登起子 GIFT FROM THE SEA
竹村皓子 迷路
黒川洋 fig-25
庄司健一 花うらない
佐藤かずこ 硬質な現場
堀田喜美子 室内の自画像
野口幹夫 連 I
龍池敦美 リズム2
郷原慎一 空へII
長岡一豊 私の棚(A)
根本雅行 集
大木薫 マーチ・ロ
男谷省吾 海辺
萩原和子 曜日
石井誠 IN THE SKY ~嵐を呼ぶ雲~
臼井恵之輔 TA 86-7
片岡世喜 待つ
小林タミ工 砂上の風景 864
峯村敏 はざまで(人工と自然)
小塚政雄 untitled 86-II
出口佳子 大地 №2
鈴木桂子 蟹が行く
高坂陽一 鏡の中の動物園
山手喬子 マインー(I)
梅原健二 だれがだれ
重田啓子 道 I
桂宏翔
高山博行 華(はな) I
武藤政彦 メモリー オブ フューチャー⁺
芹田洪太郎 人々

小林政雄 神々の黄昏
田野井俊一 夢想
栗野敬三 予感
田村典雄 女 I
いの上重子 Vinyl I
永島康功 女と海シリーズ無限遠卓
押田陽子 漂う3
戸村孝子 孤独の仲間達A
樺沢ちえ子 女の裁断図III
富樫京子 堡壘
立山崇 念 A
林茂夫 甘美な認識
今田明宏 自然を超えて

〈版 画〉

- | | | | |
|---------|-------------------------|---------|--------------|
| 藤原 泰治 | BIRD・WEEK VI | 太 蛾 亜 美 | 月見草 |
| 八木なぎさ | たおれないように | 日向野桂子 | まだ眠らない |
| 菅沼 稔 | Project of the earth. | 桐 村 茜 | Mémoire-12 |
| 浜西 勝則 | Situation-work №12 | 秋 庭 宏 行 | ウーム |
| 鈴木 道子 | Body 6 | 藤 田 修 | His Studio |
| 久保 貞治 | River side in Wapping | 小清水量造 | アウトライン '86-B |
| 矢島 万生 | 無情の仏 | | |
| 寺田 有恒 | 飛 来 | | |
| 杉山 一夫 | ヨコスカ・ドブ板シリーズ ホテルグランドエビス | | |
| 村岡 千秋 | Signboard №12 | | |
| 藤浪理恵子 | G 的邂逅 №2 | | |
| 横尾 文子 | 佇む人B | | |
| 雙田 実 | THE STAIRS | | |
| 阿部 成治 | 継起VIII | | |
| 利渉 重雄 | 2つの塔 | | |
| 松野登美子 | いつかきた道 I | | |
| 市川 有子 | 浮かぶー'86-14 | | |
| 藤原百合谷 | 時の踊り | | |
| とくだあきら | Secret-Memory 385 G | | |
| 平林 りえ | Visualization 1 | | |
| 近藤 憲昭 | BIG APPLE- I | | |
| 山上 範子 | かぼちゃ国のクーニヒ | | |
| 小林 守 | 首切り ランチ | | |
| おかもとひろこ | On the Table IV | | |
| 岡崎 平一 | 灰色の空間 | | |
| 中込 洋子 | Underground III | | |
| 和田 朋子 | 99 city VOL.6. | | |
| 永沼 政之 | nest V | | |
| 山本 早苗 | 彼方でーIV | | |
| 天野 純治 | EDGE 85-R-11 | | |

〈彫 刻〉

清水 幹子 Pencee (パンセ)
岩谷 学 遊動 II
福田 義一 タイゾー頭像
小田切秀樹 無 題
川口シノブ 午 眠
古屋 隆夫 ね こ
安藤なぎさ 大 地
郡田 政之 Spirit 2
川越 三郎 灰色のトルソ
川越 三郎 水滴 II
池田めぐみ 「七」
山下勘太郎 望郷
男谷 浩一 墜ちてゆく人
神山 茂樹 岬 II
一ノ倉潤二 そ ら

〈立体造形〉

九 多持 オブジェ
水津 慎吾 コンディション №8612
大川 幸男 会
高橋 万弥 作品 '86-3
倉橋 元治 縄文頌一
田中 忠夫 作品 JAPAN '86
飯室 哲也 線状の空間感覚 一ヨドミの音色一
久松 共子 作品 V
津田竜ノ介 KAJIN
金井 良子 影 I
松本 憲宜 原子心動一 XIII
桜井美智子 Landscape III
島 和子 壊わされた地
森島 郷子 56th FLAG
高橋 勉 Black Box「水面」
櫻井 典夫 MG-3・MG-5
渡辺 邦夫 支えられた平面「接点×4」blossom
高橋 敬治 AはB
平沼 聰志 そこにあるもの №9
尾崎 勝 と或る数値(68本の直線 II)
山口 俊朗 作品 I (KAI)
白川 雅啓 Perception '86-6-1 from 0 Perception '86-6-2 to V
平野 米三 浮かんでいる輪
高瀬 恒夫 架空庭園シリーズ2
元松 久実 REM
原田 和男 Soft Landing
西村 盛雄 彼背円

● 審査経過

〈日本画〉

今年の日本画の搬入点数は90点。昨年度の111点から見ると多少減少か?と思えたが、係りの人の報告では、出品者数は増えていると言う。それで、先ず良い方向と思われた。

さて、搬入者の多くは20代で、次に30代、40代、50代、60代、70代が1人、結果受賞では20代2人、30代1人、40代1人、入選には50代、60代が1人づつあった。搬入には、例えば、1人で3点、(それも150号の大作)そして最後1点になって受賞した若いパワーの人も居り、1人で(130号1点のみ)集中的に描き、やはり最後までよく、受賞した40代の人も居た。

1人で2点1人で1点、3点、と様々だが、要は、点数や大きさではないことは勿論、夫々の作家の本質的情念、その燃焼度が、その人らしく作者の内に、どう結実しているか…であろうかと思われる。

審査は、夏の暑い日の午後、静かに行われてゆき、結果29名の入選が決った。昨年は28名であり一人でも多く飾れると言うことはよい事と思う。今年は時間に余裕もあったせいか、作品を比較してよく見られたと思う。あまりにも趣味的、或は現代の感覚から程遠いもの、などは漸次消え去った。日本画はデリケートな材質なので、光りの状態などで微妙な反応もあるが、部屋や光線によって角度を変えて見たりしたものだ。

最後の29点に絞る時、選外候補と言うのを4、5点作り、その中から1点を選んで29点とするなど苦心し、後で悔いの無いよう、資料なども参照した。

受賞候補として4名が決って、夫々特色あるものだったと思う、中から、岡崎孝彦氏の「生の回帰」は原風景とも言える遠い、懐かしい自然の中にメルヘン風な一つの風景を手堅く描いたもの、もつと軽みのようなものが出で来ると、と思う。

香川亮氏の「奇妙な対話」は、自分の心の中に在る動物園と言ったものを描き、構成も流動的で爽やかに、奇妙な魅力のある画面となっている。今少し大づかみな中に核芯のある仕事にも連なって行くようにと感じた。

北村さゆり氏、「Commonness」は、平凡な日常の中に一つの輝きを求めて、その一瞬の喜びを素直に捉えようとしている、毎日の生活の中にあって、果して何を信じたらよいのかわからぬような日々、やはり一番信じられるのは、ただの「平凡」な今であるだけと作者は醉う…。やや集中度の無い画面乍ら、色彩にはよいものを感じさせた。

井出文洋氏の「風の彩」昨年のテーマと同じ、大自然の、山や空をダイナミックに若々しい熱気をもって、心象的に構成し追求して、あまり巧くないところに、かえって素朴を奏でる。以上四名の熱意が、やがては自己の内部世界と深くつながって行かれる日を期待する。

近藤弘明

- 搬入点数 90点(77人)
- 入選点数 29点(29人)

〈洋画〉

昨年の洋画部門は搬入作品の点数が激減して心配したが、本年は僅かながら増え387点(前回318点)となりほっとした。

考えてみると、入選作品は76点で入選率は約20%である。それだけでも数量的にはきびしい審査である。さらにその中で受賞することはなみなみならないことであることは言うまでもない。本年の入選作品について、おしなべて言えることは、いま一つ緊張感や充実感に乏しく、みずみずしい魅力ある作品が少なかったことである。審査の結果受賞候補として選ばれたのは、大久保俊夫、塩川高敏、出口信子、竹村皓子の4名であったが、残念ながら洋画部門から大賞を出すことができなかつた。しかし、大久保俊夫が特選、塩川高敏が県立近代美術館賞を獲得して僅かに気を吐いてくれた。

大久保の「拡声器のある広場」は、ボッシュを思わせるような古典風の作品だが、現代社会に向けた視線にキラッと光るものを感じられ、ある種の斬新さがただよう。塩川は昨年も受賞候補にのぼり注目された。本年の「樹映」は昨年に続く連作で、その独特なフォルムと不可思議な肌合いを感じさせるのが魅力になっているようだ。出口、竹村の作品も捨て難いものがあった。なかでも出口の抽象作品「大地」に見られる構築的な組立てと重量感は独自な境地を作り上げているし、さらに期待が持てると思った。

県美術展も22回を迎へ、第1回展に出品した若い人たちも、40才を過ぎる壮年になった。当然のことながら、数年を周期に出品者の層は変化し推移するが、今回は特にそうした傾向が著しかったようだ。この数年連続して力作を発表していた常連の名も少なかつたし、新旧の入れ変りを感じた。展覧会としては毎回優秀な新人の台頭を願っているので、この現象はよいと思うのだが、現実に若い優秀な人材が見られなかつたり、受賞級の実力作家の参加が少なくなることでは淋しいと思うのである。神奈川県美術展が、単なる一地方の展覧会ではなく、世に問う発表の場として質の高い公募展として機能し定着して欲しいと思うからである。

國領經郎

- 搬入点数 387点(224人)
- 入選点数 76点(76人)

〈版画〉

夏の日差が猛烈に照りつける8月26日、版画の部の審査に出席した。応募総数61人、142点、前年の46人118点から比べると多少多くなっているとの説明あり。しかし搬入された作品をひとわたり見回しただけでもとても沢山の作品で、その上皆なかなかの高レベルの作品ばかりに見え、審査が始まる前にそれら作品群に圧倒された。実際審査が始り目を皿のようにして見ていくが、前々回に一度審査に出席した時よりも皆増え技術は巧妙になり、注意して見ないと版種すら間違えそうになる。協議の末38点の入選作品を選出し、それらを一堂に並べその中より賞の候補作品4点を選び出す。結局、大庭明子氏の「りんごの収穫」と河口聖氏の「無題Ⅰ」の2点がそれぞれ特選と美術奨学会賞の受賞ということになった。初め気圧され気味の目も慣れてくるにしたがい、テクニックが先行している作品の多いのに気付く。これは版画をやっている人達の陥りやすいところで、作品が小手先と版からの転写により作品らしくなるという悪弊に侵され、本来の「表現する」ということがいつの間にかテクニックに置き換えられてしまう。そのようにしてできた作品はよく出来ているのだが何か物足りない。もっと作品らしくすることよりも、自由な発想と表現のある作品が出て来て欲しいと思った。

吉田克朗

- 搬入点数 142点(61人)
- 入選点数 38点(38人)

〈彫刻〉

昨年不振であった彫刻部門が今年はいくらか上昇の気運を感じられるのは、石彫の4点がいづれも力作揃いであり、若さあふれるもの（作者も若い20才～30才台）みごたえがあるからだと思う。

大賞の会田富二男君の「駆けゆく母子像」には動的で力感があふれ、三角形になった構成力の強さと共に清潔感があり好感がもてるこの量感は野外に出されるとより生きてくるだろう。

何回か受賞経験のある梅田勝裕君は「砂の女郎」と題し、美術奨学会賞を受けた。例によって女のトルソーであるが、これまでの作品より動勢の感じと肉体表現に一段の進歩を感じられる。

特別奨励賞を受けた西川淑雄君「時の旅人達」は二人像の努力作であるが、二人の関連性にもう一段の彫刻性がほしい。

賞候補になった川越三郎君の二作品は抽象形のもので曲面の美しさがあるがもう一步はみ出す力がほしい、今後に期待したい。

これらの作品以外には記すべきものはみあたらない。大きさだけでなくうつたえる力が乏しかった。細部にとらわれたり、密度にかけるもの、発想から完成までの道程に彫刻のむつかしさがある。

小島弘

●搬入点数 35点(26人)

●入選点数 18点(17人)

〈立体造形〉

県美術展における立体部門も22回目を数え、初期の頃から現在まで多様に変化し、その時代、時代の特徴を現わしてきました。私の思う立体部門における特徴は、常にその時代と同時代性をもった部門であり、その時代の余剰としての生産物を産んできました。それは、常に過激で過渡的であり、「今、ここ」の現在でもあります。

今回の作品はいつもと違う何か奇妙な印象を感じました。それは作品というより生物(いきもの)がギャラリーの空間に自己の位置を保ち生存し生きているように感じられた。灰色の皮膚をもち壁面をアーマーのように生殖する津田龍之介の作品は生物的エネルギーを感じ、また、ギャラリー空間に広がる光の波、高橋洋子の作品は地下のイメージを発露しつつ空間を生成する光と水の機械であった。また、人間とは違う姿で人声を発する、意味以前を欲望するマシン津田佳紀の作品、それに、常に根を持たず空間に増殖していく飯室哲也の人工植物、知らない世界の私達の生存する以前から、ある生物によって傷つけられ造形されたような青木恵子の白い石の作品、それらは制度化された美術の中で、いまだどこにも位置つけられず、意味以前の記号として信号を送っているように思われた。

今回の作品群を観ていると、作品というより小動物、ギャラリーというよりむしろ地下動物園という印象を感じましたが、私としては生の渾沌の中で、たとえ美術の制度なき時代においても、生の根源を問づけ、存在の意味を開示せんとする存在者であることを付記しておきたい。

倉重光則

●搬入点数 74点(56人)

●入選点数 31点(29人)

●工芸
●書
●写真

2期展・S61年10月28日→11月9日





大賞●浜本艸舟 良寛詩（書）



準大賞 ● 川村由海 COSMIC POCKET (工芸)



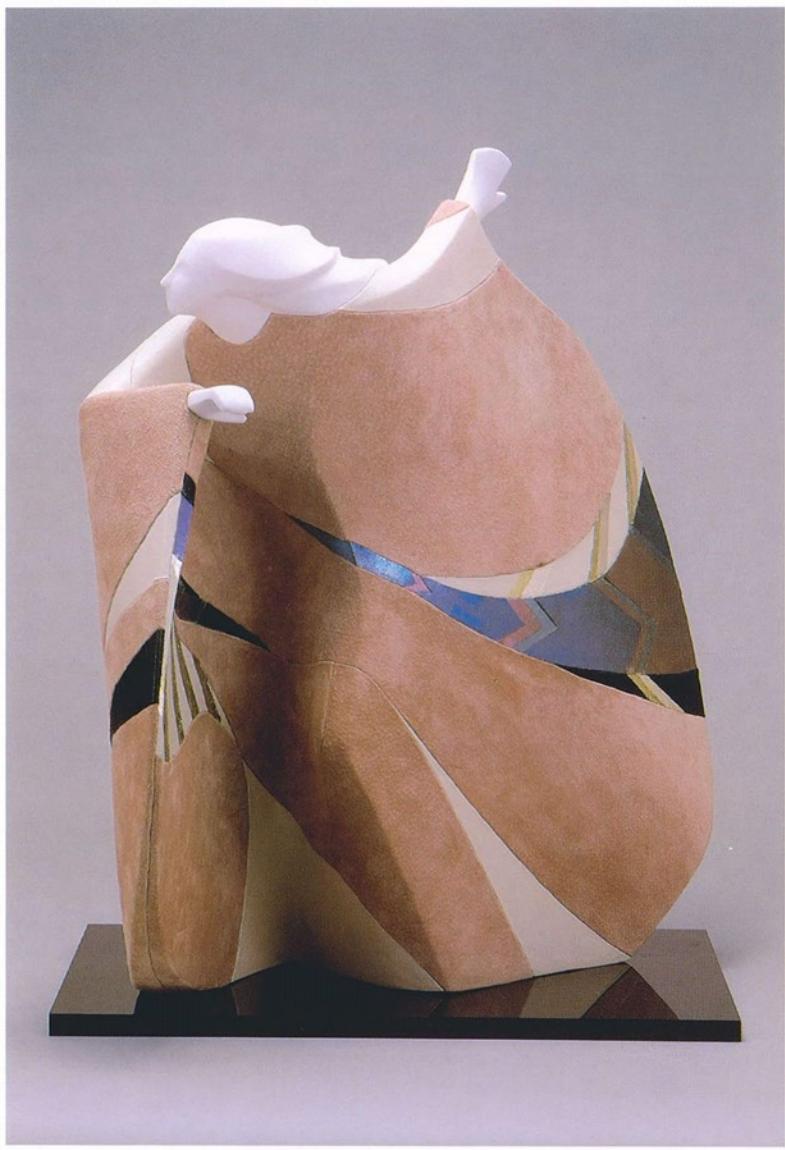
準大賞 ● 片岡順一 厚木基地夜間離着陸訓練(N.L.P) (写真)



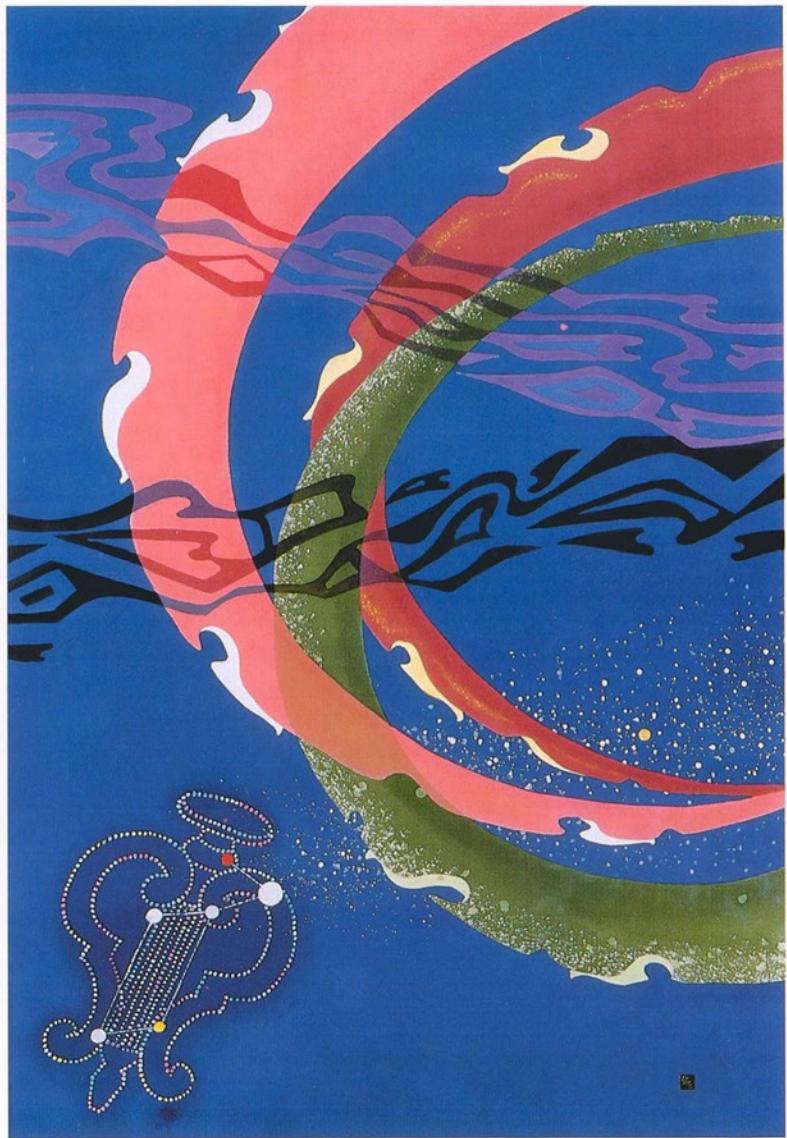
特選●本間英夫 厳冬上高地（写真）



県議会議長賞 ● 中野幸男 「変曲。動」(工芸)



美術奨学会賞 ●三輪博子 魁(さきがけ) (工芸)



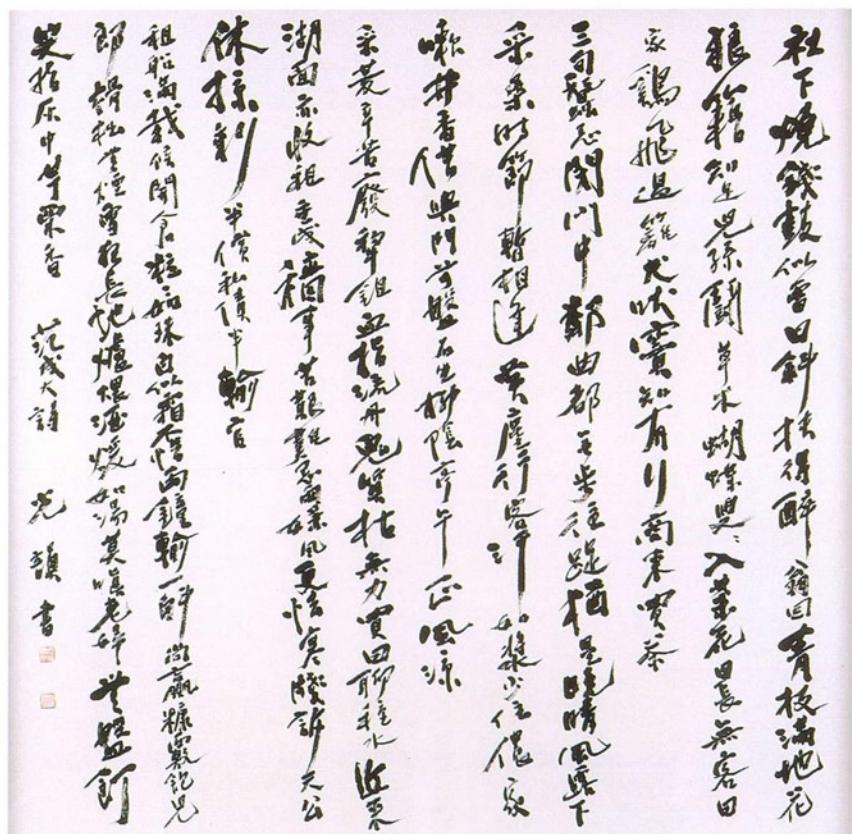
美術奨学会賞 ●咲田卑弥子 銀河礼賛 (工芸)



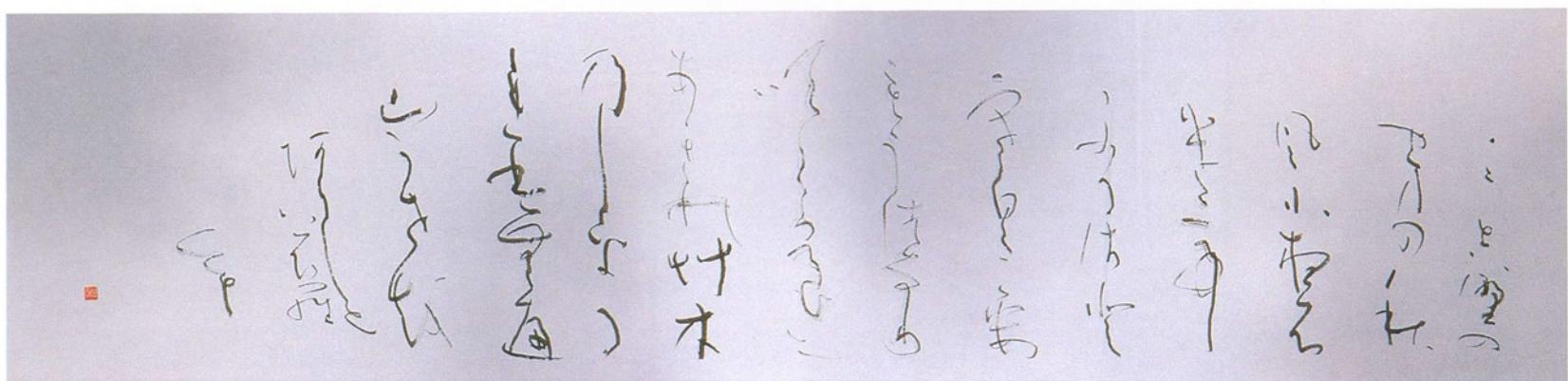
美術奨学会賞 ● 甘糟憲正 ふき漆檜文机 (工芸)



美術奨学会賞 ● 鈴木蓉処 芥自診詩 己亥雜詩三首 (書)



美術獎学会賞 ● 立神光韻 范成大詩 (書)



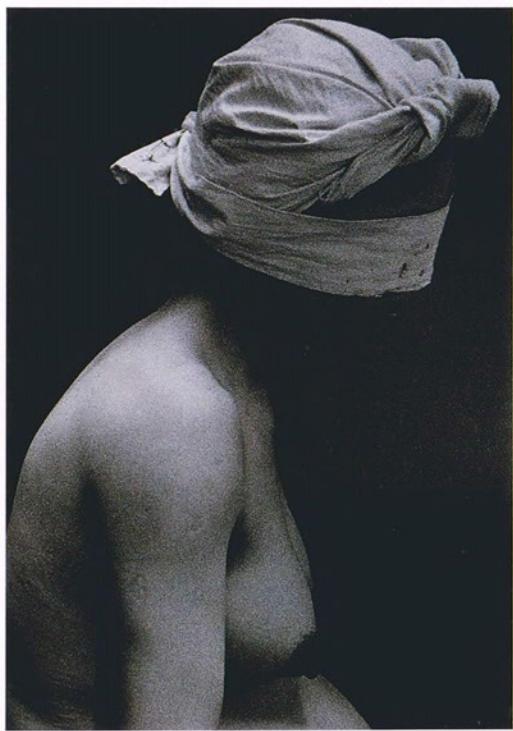
美術奨学会賞●沓掛和絵 秋風の歌二首 (書)



美術奨学会賞 ● 佐治利雄 黒猫 (写真)



美術奨学会賞 ● 藤原義守 女のコラム (写真)



美術奨学会賞 ● 葛西清悦 無影燈の下 (写真)



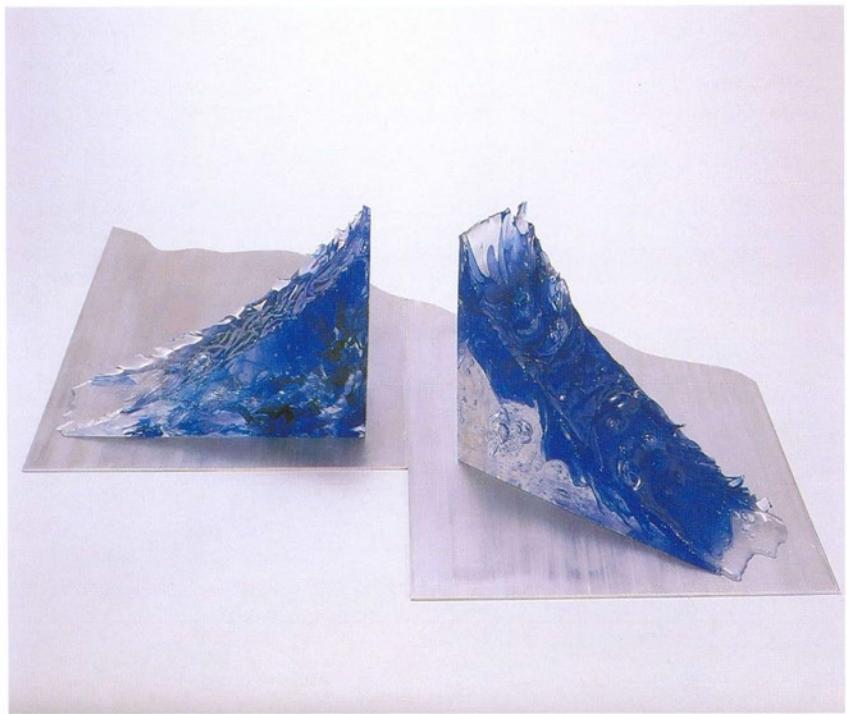
美術奨学会賞 ● 奈良 巍 '86 A TURNING POINT 水・草 (写真)



特別奨励賞 ● 山崎隆雄 HARD TOUCH (工芸)



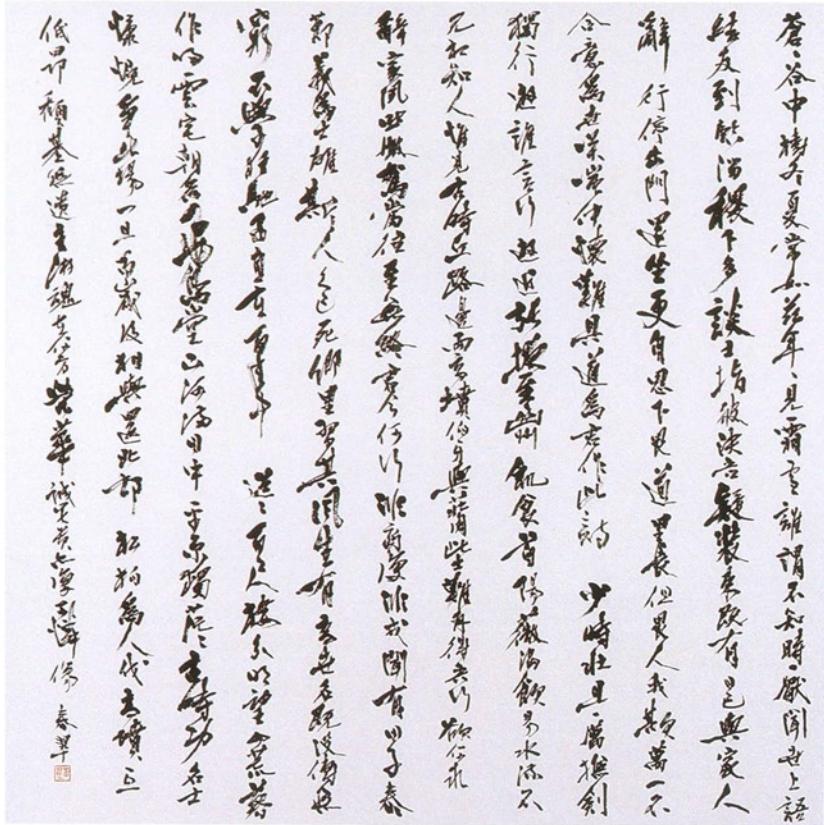
特別奨励賞 ● 吉崎えり 城 (工芸)



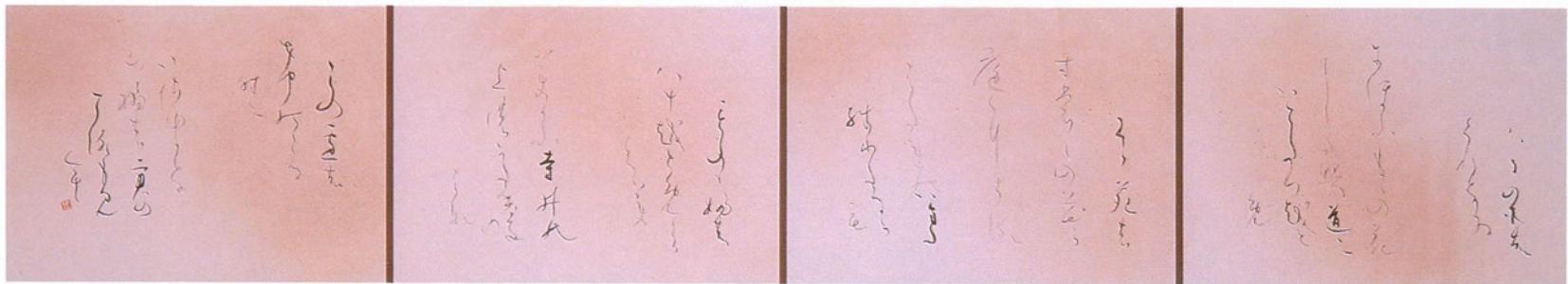
特別奨励賞 ● 崔 福代 CRRENT (工芸)



特別奨励賞 ● 木戸梢光 右京大夫集より (書)



特別獎勵賞 ● 吉田春翠 陶渕明詩（書）



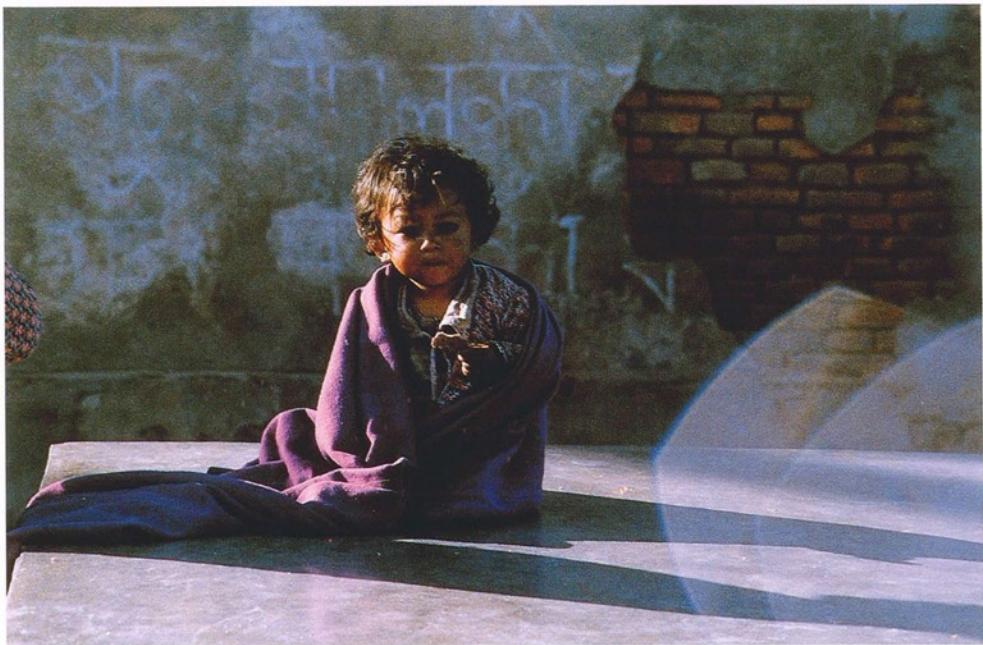
特別獎勵賞 ● 本間千枝 萬葉集歌四首（書）



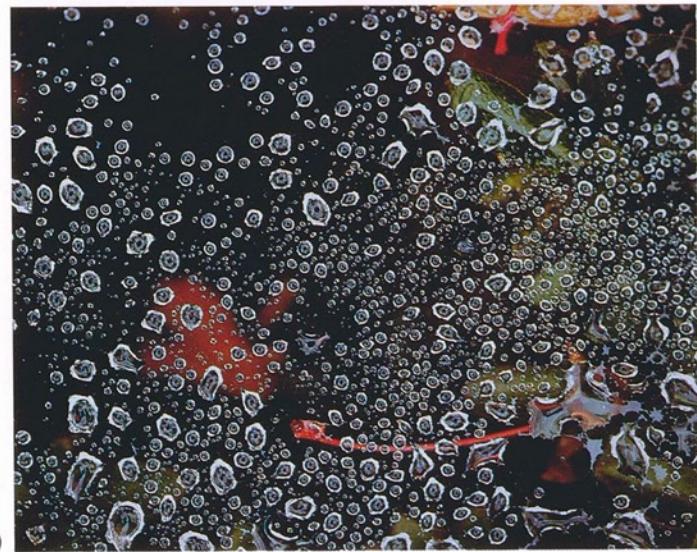
特別奨励賞 ●内田幸夫 四季（写真）



特別奨励賞 ●立川昭彦 ワシの舞う海 (写真)



特別奨励賞 ● 小野 肇 愛を……。(ネパール) (写真)



特別奨励賞 ● 松本時二郎 霧雨の詩 (写真)

●受賞作品目録 <工芸・書・写真部門>

●大 賞

浜 本 岬舟 良寛詩<書>

●準大賞

川 村 由 海 COSMIC POCKET<工芸>

片 岡 順 一 厚木基地夜間離着陸訓練(N.L.P)<写真>

●特 選

本 間 英 夫 厳冬上高地<写真>

●県議会議長賞

中 野 幸 男 。変曲。動<工芸>

●美術奨学会賞

三 輪 博 子 魁(さきがけ)<工芸>

咲 田 卑 弥 子 銀河礼賛<工芸>

甘 糟 憲 正 ふき漆椿文机<工芸>

鈴 木 蓉 処 龔自診詩己亥雜詩三首<書>

立 神 光 韻 范成大詩<書>

沓 掛 和 絵 秋風の歌二首<書>

佐 治 利 雄 黒 猫<写真>

藤 原 義 守 女のコラム<写真>

葛 西 清 悅 無影燈の下<写真>

奈 良 巍 '86 A TURNING POINT 水・草・木<写真>

●特別奨励賞

- | | |
|-------|-----------------|
| 山崎 隆雄 | HARD TOUCH<工芸> |
| 吉崎えり | 城<工芸> |
| 崔 福代 | CRRENT<工芸> |
| 木戸 梢光 | 右京大夫集より<書> |
| 吉田 春翠 | 陶游明詩<書> |
| 本間 千枝 | 萬葉集歌四首<書> |
| 内田 幸夫 | 四季<写真> |
| 立川 昭彦 | ワシの舞う海<写真> |
| 小野 肇 | 愛を……。(ネパール)<写真> |
| 松本時二郎 | 霧雨の詩<写真> |

●入選作品目録

〈工芸〉

天野 雅史 桜拭漆壺中朱尺五寸
相原 弥 和・和・和
鈴谷 茂翁 漆箱・渚のシルエット
倉田 忠治 鉄釉窯変大鉢
山田 秀雄 青流
出縄 高昭 流木
西山美恵子 冬の幻想
眞田 亮子 夜明けの前に
石井 理恵 最果ての時の彼方へ向う時
京極三恵子 芒地暈し紬織着物
高梨 幸子 涼
大塚 和代 金銀研出皿
小野寺和子 着物 野葡萄
伊藤 義郎 陶器 深鉢 冬の丘
高橋あづま 夏の思い出
小山 岳一 柿釉刻線文壺
斎藤 茂 飴釉魚文大鉢
上田 菊明 モロムキ紋様
谷田部君江 雪晴れ
高木 京子 上絵茶蓋物
東村 洋子 散華
金子 金作 油滴壺
小山 邦子 草木・ローケツ染 染額 春のよい
高橋 新六 深鉢
菅井理栄子 さざ波
堀口 成依 空飛ぶジューク
小泉 早苗 チョーカー
村田 光義 壺(焼締)
岩崎 江舟 鎌倉彫いちょう文丸盆
小山 建次 琥箱

佐々木達行 三島熊谷草文壺
長澤 義春 練込壺
小園 博 鎌倉溜波形盛皿
小園 敏樹 白漆茶櫃「GURI」
小林 静子 静動
村田 五郎 黄瀬戸松葉文鉢
栄谷 俊介 ASPECT 85(様相)
加納 長作 練上曲線文壺
長江松之助 悠(はるか)練入花器
大澤 恭代 型・草木染帯(山並)
島田 瞳 和水
福岡 幸基 グラヴュール桜前線文花器
山田 悅子 型染 草木染おぼろ絵羽小紋(ふるさと)
西村 由美 “おもて” ピンク・青・緑
工藤 直 ムードランプ “本牧 Day & Night”
木村 俊江 イカリング
山本宗東 鉄釉花器
三月一彦 盛皿
今井 松代 合子椿
中沢 秀 希望
佐々木貴子 the twinkle.....
島田 伸子 幻花
島村 信一 金箔文花器
平山 敏文 SYMPATHISER
斎藤三枝子 銘々皿セット
関 佳子 野の花たち どくだみ・つゆくさ・ひめごん・ほたるぶくろ
奥田 光代 宇宙ステーション
中田 文 網目文釜
金子 清 天目釉条文鉢
増田かよ子 潟(ソ)

宗像 昭 壺
吉崎 僚一 蝶文 三島鉢
安井 頸太 "Le banquet・I"
山崎 和子 "Fancy Space II"
吉川 則夫 炎 炎
伊藤かおり 樹奏曲
中島 光雄 北の洋
桑原 平治 飛鉢壺
米山 光 備前緋だすき大壺
谷川登美夫 折 紙
平野 朱美 「Magic plant」
鈴木 巨 練上壺
佐々木愛子 かたりあう
菊田 明 紬裏紅木蓮図八面大皿
猿田 洋子 かきおとし鳥文扁壺
村田 則子 内海・そのご
稗田 煉子 PICNIC (信楽の里へ…)
鈴木 義之 大鉢・中鉢
田谷 そよ 桃太郎
中村 和正 見果てぬ夢 I
山下 敦子 星のロマン
伊藤登喜子 陽の下で
高野 聖子 プレリュード
広瀬 祐見 星の世界
石井 智裕 黄瀬戸輪花組鉢
池田 稔 月光の壺
早野 幾雄 茶碗 I
太田美佐枝 想
小林 豊 線彩黒容
村主 武 紬裏金彩壺

栗原 節夫 楽 魚
酒井 隆昌 迷 龍
成田 哲人 友禅訪問着「華」
平賀 好子 焼×波紋器
市原富士子 ジュウリー
吉岡 末子 着物「水仙の花咲く丘」
吉田 能子 遙か、水音
半田 悅子 アニミズム
河原 瑠璃 太古の封印の解ける時A・B
成石 茉莉 象嵌紋 大鉢
八重森千賀 幾さざ波
波多野安希 宙 ヘ
柏木 豊司 八方刀痕胴張角皿
佐々木松雄 均窯壺
大木 一与 裂氷釉 大壺
石川 武士 時象 '86
井上 達 宇宙の転回
松原 越郎 鉢
松原夫佐子 茶 碗
本田 敏晴 MEN
河原 和明 座 禅
中村 良哉 六綾の器
多賀 ちか 波
澤井 幸男 練上壺
楠 隆雄 窓
木下もと子 横浜開港風景文着物
内田 守 波 紋
納谷 敏彦 松葉編花藍
早川 康子 春夏秋冬文字型染屏風
大津由美子 Beeline

〈書〉

清国律美 一閑文様合子(木造)
田口三恵子 自画像(煩悶する私)
永井建雄 壺(球体と18個の平面の造形)
魚見一子 異色象嵌土灰釉壺
島崎一朗 壺 2
土田紀美子 蝶文七宝飾壺
隈元いづみ フェルトタピストリー“山巒”
わた辺きょうこ 有線七宝
大原乾資 藍染板締かざり布

平田十臥 方千詩
澤田剛明 落合直文歌「長谷寺」
篠崎泰子 北原白秋の詩「五十音」
馬場虹苑 近代詩(立原道造の詩)
廣川心斎 俳句(蛇筈の句)
梅田昌葉 俳句 横浜十句
八木房江 小野十三郎詩
水野裕子 中野重治「雨の降る品川駅」
清水金次 近代詩文書 嫁とり
松田多恵子 荒巻しんのうた七円の唄より
川瀬魚石 近代詩文書 杉山羚羊の句
小野寺聖石 近代詩文書 草野心平の詩
滝沢秀石 島崎藤村の詩 青春六首
井上美子 島崎藤村の詩 雲のゆくへ
大内弘子 この道・白秋の詩 近代詩文書
上村仙石 八木重吉の詩貧しき信徒より夜
森山可余 「竹」草野心平詩集より
関根玄道 井上清の詩
千葉清子 三好達治のわが手いま
綿貫吉野 ベックルの詩 笑うあなた
穂須海夏子 中原中也の詩 湖上
渡辺美代子 立花隆 宇宙よりの帰還より
大木銀子 しつくり似合いの
大木明子 ことばよりも
中村よゑ 枯れ葉
宮本照子 花と小人たち
飯田夜想 わがいほは
小巻仙空 高青邱詩
竹俣華嵐 蘇東坡詩
河合端祥 黄庭堅詩二首

荒木和子 許棠詩
尾家瓈嵒 白樂天詩
白水敬華 陶淵明詩
小林清坡 劉長卿詩二首
黒田抄嵒 李嘉祐詩
原田白汀 陶淵明詩
諸節均 李白詩
横山芳硯 明・袁宏道「7月21日有憶偶題」
山口清晞 白樂天詩
志村魯嵒 李紳の詩
立花久子 杏花
嶋田光哉 秋浦歌
大島謙介 元稹之詩
飯森芳苑 春日李白を憶う
福井幽紅 華清宮
板垣展子 江南旅情(祖詠)
今井幽耿 登樓 羊土謡
内山幽蘭 春夜洛城聞笛
川島喜代美 晚次樂鄉縣
渡辺江雪 渡揚子江
山口智子 歸雁(錢起)
宮田明子 岳陽樓重宴王八員外貶長沙
高橋伸子 宴辺將(張喬)
長山哲子 草(白居易)
青木清美 從軍行(二)王昌齡
深松耿翠 岳陽晚景
丸山美津江 萩
溝口京子 秋のうた
増田芝咲 しほがまの
木多良子 光のごと

番場青秀 野となりて
菊地順恵 渡洛
棧敷東石 秋風に
落合正峰 送夏目漱石之伊像
佐藤栄子 夕顔
伊勢青京 雲はみなはらひはてたる
関口青霞 くるはる他一首
木田南岳 良寛詩二首
中村小葉 秋懷の詩
佐藤秋翠 関戸本古今集
黒坂春香 和歌二首「久方の」
行木虹聲 一字書(剛)
新井青裕 王閬州筵奉酬十一舅惜別之作
大矢鳳城 醉公子
栗橋東崖 陶淵明詩(雜詩二首)
渋谷松聲 郭璞詩
新屋京子 孟浩然詩
荒井寿逤 花詩二首
徳久郁子 江南旅情 終南望余雪汝 別業
中村蒼汀 白居易詩
小川如泉 宋之問詩
篠原圭子 杜甫詩
杉山美智子 陶淵明詩
黒田香影 臨針切
新井素光 古今和歌集 秋のうた
増田浩子 古今集より
山辺静塘 古今和歌集より
高橋蘭径 和歌あつめ
吉川蕉雨 建礼門院右京大夫集より和歌五首
北條加奈子 百人一首 秋の歌

高崎 浩子 新古今和歌集 秋の歌
郷治 春彩 関戸本古今集・春秋の歌
飛田 恵風 和歌二首
横山 蕙 静 北原白秋の歌一首
古思 蕙 風 和泉式部の歌
浅間 秋 蕙 かな俳句2首
秋重 蕙 永 島木赤彦の歌
関本 蘇 心 額田王の和歌
明石 蕙 州 万葉歌二首
松田 松 遼 春霞み 他七首
三原 和 子 林より
島田 玲 花 訪呂逸人不遇
吉田 嘉 洋 登金陵鳳凰臺
富山 陽 寿 別子由至寿州
木下 静 朝 招隱の詩
春山 右 涛 陸游詩、晚泊
木須 青 苑 杜牧詩
吉田 桂 秋 送内尋盧
英 瑛 香 金陵懷古
大江喜桂華 とものりのうた
滝口 伸 葉 蘇軾詩
中溝 右 聰 送友人
土屋 右 泉 成島柳北詩
山本 右 高 高青邱詩
東山 右 徹 邵康節詩
菊島 右 雪 程明道詩
松尾 右 翠 陶淵明詩
茶木 静 萌 岳参詩
門田 可 寿 遊祖塔院
和田 静 月 王維詩 七言律詩

黒田 貴 茜 東潤種柳
菅井 穂 谷 散代盤鳩
佐藤 緑 羊 蘇東坡詩
横山 蘭 葉 雜詩十二首 その五(陶潛詩)
増木 寿美子 柳 巷
梶川 景 谷 李白詩「江上吟」
山田 恵 茜 宿山寺(項斯詩)
鈴木 孝 子 本能寺
大木 修 葉 題=漁樂圓
園田 祥 陽 黄山谷詩
廣瀬 閑 流 江上看山
安部 梅 陽 李白詩
宮川 勝 美 伝藤原行成筆 関戸本古今集
吉村 瑞 枝 陶淵明詩多字数作品
植村 三 洲 隸書“宋部康節養心歌”
山本 花 聲 唐 詩
林 如 巍 千字文
三津木芝影 杜甫詩(和興八首)
大山 青 高 杜甫(新安英)
江川 青 漣 杜甫之詩二首
口村 妙 子 三吉野の象山の
奥翠 月 李高隱詩
大塚 翠 峰 張瑞図・西園雅集圓旅抄
阿部 紅 雪 唐 詩
加藤 純 子 唐 詩
阿部 跳 龍 唐 詩
神藤 松 代 漢字(蘇東坡詩)
長島 正 恵 西本願寺世六人集小大君集
鈴木 莊 鶴 偶然作
小山力ヨ子 哀江頭

- | | | | |
|-------|-------------|------|-------------|
| 木下滔 泉 | 漢 詩 | 衣袋蒼玉 | 王土禎詩 |
| 田所壽泉 | 仲秋月三首 | 菅野堯処 | 陶潛詩 |
| 池田莊春 | 漁洋の漢詩 | 近藤粹処 | 宋六問詩 |
| 野口翠香 | 蘇東坡 水龍吟 | 御園順子 | 秋 |
| 飯塚美佐子 | 僧惠勤初罷僧職 | 平間愛子 | 伝小野道風筆 本阿弥切 |
| 野頭莊雲 | 王維詩 | 佐藤俊恵 | 小島切臨書 |
| 岩崎 勝 | 蘇東坡詩 | 塙沢郁子 | 小島切臨 (小野道風) |
| 関口美智子 | 安國寺尋春 | 斎藤紫香 | ふかきこころ |
| 門倉裕子 | 游靈隱高峰塔 | | |
| 山口ヨシエ | 蘇東坡詩 | | |
| 石関富士子 | 蘇東坡詩 | | |
| 鈴木天鳴 | 蘇東坡詩 上元夜 | | |
| 内田 昇 | 偶然作 (王維詩) | | |
| 田村秀亭 | 唐 詩 | | |
| 小俣照子 | 玉淵潭 | | |
| 石塚正子 | 串田孫一詩「雲の母体」 | | |
| 品川四郎 | 桜咲く | | |
| 増田溪雪 | 万葉三種 | | |
| 谷口春泉 | 高啓詩 | | |
| 柴岡明洞 | 王安石詩 | | |
| 佐藤柚処 | 李長吉詩 | | |
| 鎌田格処 | 梅堯臣詩 | | |
| 金田喬雪 | 蘇東坡詩 | | |
| 府川泉処 | 張九令詩二首 | | |
| 尾崎静鳳 | 杜甫詩 (哀頭江) | | |
| 森草坡 | 李賀詩 | | |
| 篠原湖松 | 原爆行 | | |
| 吉田翠山 | 王建詩 | | |
| 中澤春柳 | 杜甫詩 | | |
| 石田桐靈 | 唐彥濁詩 | | |

〈写 真〉

堀坂 和夫 惨敗の日
近藤 宏 扉下り ('86.夏) ①・②
松枝 洋 女たち(1)・弾く
石渡 四郎 伊豆の散歩道 4-1・4-3
青木 博 関牛
山本潤一郎 それぞれの季節 (白川郷)
梅田 寿明 激闘 1・2・3
たなか陽子 間にあるもの I
酒井 辰夫 あやめ祭り
岡田 稔 廃車解体の扉 1・2・3
藤井 健 埠頭
藤井 澄三 歪んだ街
田辺 和郎 都市人形 A・B・D
尾原 芳子 森の仲間たち
坂倉 哲 冬の朝
坂場 孝 幻想
河西 祿朗 綱への日 (双羽黒誕生)
小野 留吉 ヒマラヤに生きる人
矢澤 晴夫 静謐
木村 否平 光景
矢部千代吉 山村の闘牛
石谷一郎 秋の光を浴びて
坂 正久 白梅
大畠 肇 ドブイタ アヴェニュー
高野 明 月花美人
佐治 昌典 水中の道化師
村上 昭子 ライブハウス
木村 延男 晩秋の風
相原 新一 女
亀井 貴司 辺境の子ら

川原 龍昭 富士
近藤 宏孝 祝在位60年
直井 三男 春うらら
佐瀬 勇 春節祭
小俣 吉弘 冬の大涌谷
埜渡 光雄 蓼池
望月 勝美 雪の駅
川部 庫太 喫茶店出窓の光彩
越川 敏子 オールドカップル
越川 敏子 ココス島のショー・ウーマン
水野 俊夫 ハッケ岳 4AM
勝俣 晃男 波
北本 幸一 湯立獅子舞
臼居 一雄 修那羅峠の石仏 (信濃路)
中瀬 有道 小さな幸せ (スイスにて)
青木 繁雄 鎌倉残映
佐々木孝義 夏の女
中川 昭人 笠雲二題 (1)・(2)
山口 順正 月読の抄
今 道子 静物
原島 敏彦 麗々の山陵 2・3
DENNIS WEBER MY SIMPLE LIFE
小室八千雄 水中スター・マイン
わた辺きょうこ 名物車掌 メ造さん
市川 美幸 Factory
小宮 信幸 遙かなる槍ヶ岳 1・2・3

● 審査経過

〈工芸〉

第22回神奈川県美術展の第二期展(工芸・書・写真)部門の審査は、昭和61年8月27日(水)の午前10時から神奈川県民ホールにおいて各部門ごとに午後5時頃までかけて行われた。

工芸部門では、今回209名による247点の搬入があったが、これを前年の173名による212点と比べると、かなりの増加となっている。審査は、別記10名の審査員によって、先ず作品1点ずつを対象に慎重に行われたが、その結果、全員が総て入選に反対、もしくは唯1人の支持しか得られなかった作品は選外と決め、過半数の6名以上の支持を得たものを一応入選、2名以上5名までの支持を得たものを一応保留として審査の第一段階を終えた。次いで本格的な審査に入り、一応入選したものも保留したものも含めて、長時間かつ活発な討議の中で再び1点ずつ挙手による審査員の意向を問い合わせながら優れた作品を残して行き、その結果、136名による138点の作品が入選と決定したのである。

今回の審査の感想としては、工芸各分野の応募の幅も年々拡がりを見せて来ている、作品のレベルも向上しつゝあることは喜ばしいのであるが、既に受賞経験のある作家をはじめ、県内在住で中央において活躍している中堅及び新進気鋭の作家たちが出品して来ないことは何とも淋しい限りである。

なお今回、工芸部門から県展4回の入選歴を持つ川村由海（伊勢原市在住）の、如何にも女性らしい温かみと大らかさを発散させている広口の陶器の壺に、童話的なパターンを加えた「COSMIC POCKET」と題した作品が、見事に準大賞を獲得している。近代的な明快さが高く評価されたのである。次いでその他の受賞作品を挙げると、

(県議会議長賞) 中野幸男作「動・変曲」(陶芸) 湯河原町在住。(美術奨学会賞) 三輪博子作「魁(さきがけ)」(人形) 茅ヶ崎市在住。咲田卑弥子作「銀河礼賛」(染織) 横浜市在住。甘糟憲正作「拭漆棒文机」(木漆) 藤沢市在住。(特別奨励賞) 山崎隆雄作「HARD TOUCH」(陶芸) 平塚市在住。吉崎えり作「城」(七宝) 鎌倉市在住。崔福代作「LRRENT」(クールガラス) 横浜市在住。であり、いずれも個性豊かな優秀作品である。

吉田耕三

- 搬入点数 247点(209人)
- 入選点数 138点(136人)

本年の概況の第一に挙げられることは、書部門の公募数の増加と謂うことです。ちなみに19回展が283点、20回の全国展規模の下に行われた時が307点、昨年21回展が273点で、本年は328点です。御承知の如く書部門に於ては一人1点なので公募点数は其の儘出品人員と謂うことになります。特に本年度は有力作家の病疫や、地域指導者の病気等の事情もあって、恐らく出品者の当然の減少を予測しておりました処、実情は過去20年来最も多い公募数を見た訳です。このことは県展書部門の着実な進歩として受けとめてよいでしょう。そして鑑別の結果入選は196名で、その入選率も59%となり、これ又過去の実績を上回る厳しい数字となりました。この数値は中央有力書展に比しも遜色のないものであり、又他府県の催す書展に較べた時にも可成り高度な内容を誇示出来るものと思料されます。然しこのことはさておいて、本年の鑑審査を通じつぶさに其の内容を検討した時には責任者として未だ多くの問題点が指摘されます。先ず全般的な様想として各部門（漢字・仮名・近代詩文書）共にそのレベルは決して満足すべきものではありません、所謂平均的な技巧というものは認められても突出したとでも謂う様な作品の「群れ」見たいなものが取られないのです。これは既に有力作家の多くが県展を卒業していることに由来しますが、それにしてもせり合う様な緊迫感の稀薄さはいなめないです。入選或いは入賞者、微差でおしくも落選の憂き目を見た人達総べてがそれなりに努力をされたことに対するはその労を多としますが、作品の質と量には或る因果関係を想わざるを得ないです。

各部門別の趨勢と概況の一端を申し述べれば、漢字作品は前述の如く一段のレベルアップを希求します。59%の数字が示す如くその半数弱が落選ということに対しても稍安易な制作過程が取られます。それから、作品の型態を変える工夫があつて然るべきです。昨今各種展覧会の作品寸法が規格化されて、展示された時に変化に乏しい単調な風景を見るのがあります。これは次年度以降に是非具現したいことの一つです。仮名作品は近次急速にその充実を見、その証左として数次に亘り最高賞を獲得しておりますが本年度の作品は臨書作品が多数出品されました。そしていずれも丹念で茂密なものでした。私は決して臨書を否定するものではありませんが、書展に於ける臨書作品には自づと限界があることも事実です。平常それら古事を臨摹修得して然る後これを基盤として作者の創意を加えたものの出陳が望ましいのです。

近代詩文書の作品については有力指導者が他界されたにもかかわらず多くの出品がありました。後継の方々努力の賜です。さてその内容についてはこれ又、一段の工夫と展開が望まれます。特にこのジャンルに挺身される人達にとっては、作者の創意なくしては既にその生命が失われるといつても過言ではないでしょう。最も恐るべきことは様式の形骸化ということです。最後に入賞作品の二・三

について附言すれば、先ず大賞に選ばれた「浜本岬舟」君の良寛詩の作品は、今回展の収穫の一つです、先鋭な線質を駆使してその余白との係わりも見事です、とかく羊毛筆で濃墨の作品は鈍重なものになり勝ちですが、最後まで緊張感を持続して然も明るい作品です。「立神光韻」君の四角い作品は多字数で然も各字に充分神經が行き届き、入賞作品にふさわしいものです。「鈴木蓉処」君の横物の作品はあたかも中国文人の詩稿の趣きを作品化したユニークなものでした。この作が示す様に同じ形の作品でも作者の工夫によって極めて新鮮な感を与えるものです。終りに本県展当初より参加され、今日なお、嘗々と努力を重ねられておられる出品者に対し茲に讃辞を送るもので

殿村藍田

- 搬入点数 328点(328人)
- 入選点数 196点(196人)

〈写真〉

新審査員の森山大道氏が、他地域の県展に比較して、祭りものが少ないので、すっきりしていると言われた。過去20回を顧みて、わが県展も祭典ものが半数を占めた時代もあった。祭りものは型にはまって、マンネリになりやすいので、視点を変えて写してほしい。

準大賞「厚木基地夜間着陸訓練」片岡順一は、夕闇せまる飛行場の中で、米軍機の訓練風景が、日航機大事故いらいの暗いイメージのムードを暗示している。ライフワークの作者でなければ、表現できないカメラタッチは実に見事だ。

特選「厳冬の上高地」本間英夫は、観光シーズンでなく、訪れる人も少ない厳冬の上高地をよく撮った。冬の星空は美しいといわれているが、その星空と、凍てつく吹雪とを組合せ、効果をあげた。上位2点の作品が、明暗の絶妙な対照になっている。

「ターニング・ポイント」奈良巖は、回転する手法をうまく使って、新しい風景を創造している。夢があり、詩情がある。「女のコラム」藤原義守は、女体をモチーフにして、幻想的なイメージを表現した。私は、ダダイズムを感じた。「無影燈の下」葛西清悦は、包帯で目かくしをしたヌードが、大胆だ。見る人に、それぞれの解釈をさせるのが、狙いであろう。「黒猫」佐治利雄は、猫を主体にして、独特的なパロディーである。難しい心象写真が多いなかで、黒猫と花輪の明快なコントラストが、心よく感じた。「霧雨の詩」松本時二郎は、水滴の美しさが、しみじみとした情感を歌いあげた。「愛を……(ネパール)」は、貧しいネパールの物乞いの子供が、可愛らしい。東南アジアの貧しい人々に救いの手をと、作者は語っている。「四季」内田幸夫は、溪流の春夏秋冬の美景を、そのままぱりぱり写している。技巧的な作品に対して、この素直な表現も捨てがたいと思う。「ワシ舞う海」立川昭彦は、北海道の氷雪の風景を背景に飛翔する、ワシの生態がよく写されている。

奥村泰宏

- 搬入点数 207点(103人)
- 入選点数 105点(67人)

● 大賞受賞者

第1回	40年度	大森運夫「九十九里」《日本画》	第18回	57年度	小泉正彦「冬の木」《洋画》
第2回	41年度	廣瀬義男「作品 I」《洋画》	第18回	57年度	井上隆敏「イグナドバ選手」《写真》
第3回	42年度	垣内治雄「坐る」《彫刻》	第19回	58年度	井上 麦「土の系譜」《彫刻》
第4回	43年度	川村直子「'69-A・'69-B」《洋画》	第19回	58年度	茶木静谷「竹齶松影」《書》
第5回	44年度	山井イク夫「Lady70-1・2」《立体造形》	第20回	59年度	東谷武美「日蝕F」《版画》
第6回	45年度	伊藤 栄「天涯巡礼」《日本画》	第20回	59年度	西 雅秋 「CASTING VIEWPOINT」《野外彫刻》
第6回	45年度	大久保利蔵「Straw」《工芸》	第20回	59年度	林 亘「クリスタル大鉢“洞”」《工芸》
第6回	45年度	西川万象「廬子諒詩」《書》	第21回	60年度	鶴見厚子「夢の質感」《洋画》
第6回	45年度	加賀谷武男 「にっぽんNONSENSE ZONE」《写真》	第21回	60年度	石渡四郎「硫黄島の再会」《写真》
第7回	46年度	中西新太郎「落日」《洋画》	第22回	61年度	会田富二男「駆けゆく母子像」《彫刻》
第7回	46年度	島津碧嵐「寒山詩」《書》	第22回	61年度	浜本艸舟「良寛詩」《書》
第7回	46年度	大谷正夫 「師ミス・ザンダー(フェリス女学院)」《写真》			
第8回	47年度	佐々木英夫「人間の風景1・2」《版画》			
第8回	47年度	林 良達「騎士」《工芸》			
第9回	48年度	河原 明「蜻蛉」《彫刻》			
第9回	48年度	石川充宏「Girl in chair」《工芸》			
第10回	49年度	大山 鎮「語り」《日本画》			
第11回	50年度	鎌田恵子「Lost my way」《工芸》			
第12回	51年度	泉谷淑夫「愁傷のモニュメント」《洋画》			
第13回	52年度	井上 麦「黒の女-’77」《彫刻》			
第14回	53年度	坂田一之「MIRROR」《立体造形》			
第15回	54年度	前本利彦「暗い部屋 I・II」《日本画》			
第15回	54年度	川口流坡「菅原道真詩」《書》			
第16回	55年度	和久井Who「HANGING」《立体造形》			
第16回	55年度	市原欣一「ふるさと」《写真》			
第17回	56年度	坂井彰夫「SEISHO」《彫刻》			
第17回	56年度	高木参平「BODY」《工芸》			

●第22回神奈川県美術展関係者名簿

● 顧問

〈日本画〉

小倉遊亀

中島清之

〈洋画〉

小山敬三

斎藤義重

〈彫刻〉

圓鍔勝三

高田博厚

〈工芸〉

蓮田脩吾郎

〈書〉

殿村藍田

比田井南谷

(順不同)

● 委員会委員

委員長

上野 豊

副委員長

李家正基

神戸由雄

菅原寿雄

匠秀夫

土屋利保

三上次男

吉田耕三

柳生不二雄

弦田平八郎

加藤東一

國領經郎

斎藤壽一

井上信道

斎藤義重

永井鐵太郎

殿村藍田

奥村泰宏

(順不同)

● 大賞・準大賞選考委員

〈日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形〉

近藤弘明

弦田平八郎

倉田公裕

國領經郎

斎藤壽一

柳生不二雄

井上信道

三上次男

斎藤義重

針生一郎

(順不同)

〈工芸・書・写真〉

永井鐵太郎

吉田耕三

菅原寿雄

殿村藍田

奥村泰宏

浜口夕カシ

(順不同)

● 審査員

〈日本画〉

片岡球子
加藤東一
近藤弘明
弦田平八郎

〈洋画〉

江見絹子
倉田公裕
國領經郎
匠秀夫
中谷龍一
渡辺恂三

〈版画〉

斎藤寿一
柴田昌一
馬場橋男
柳生不二雄
吉田克朗

〈彫刻〉

井上信道
小島弘
中村宏
三上次男

〈立体造形〉

倉重光則
斎藤義重
中島けいきょう
針生一郎

〈工芸〉

飯野啓三
小田垣要司
芝山吉邦
中田呂尚
永井鐵太郎
永山登志子
野田芳正
尾留川忠
水野矯夫
吉田耕三

〈書〉

岩澤蕙堂
大島嵐山
重田翠村
菅原寿雄
仙場右羊
溪口幽城
殿村藍田
西川万象

〈写真〉

江島隆
奥村泰宏
常盤刀洋子
浜口タカシ
森山大道
(順不同)

● 実行委員

〈日本画〉

浅見信夫
◎大山鎮
能島和明

〈洋画〉

阿部和美
松浦安弘
◎白鳥三郎
鈴木雪子
鈴木隆夫
吉崎道治

〈版画〉

岡本よし美
西田知子
◎天野純治

〈彫刻〉

金子典義
河原明
丹羽武雄
松本繁来

〈立体造形〉

八島久恵
◎鈴木豊男子
羽生眞

〈工芸〉

青野武市
江刺栄一
江成房子
◎小林貢
小山岑一
南雲陽
松本祐昌
望月正子
市村富美夫

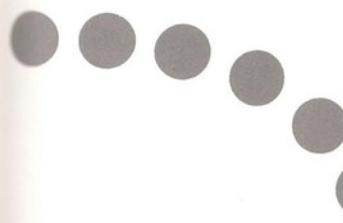
〈書〉

◎吉田蘭処
関口大湫
高木幸子
大藤史城
茶木静谷
丹羽蒼処

〈写真〉

阿部タモツ
鈴木健夫
高橋勤
中島倍三
篠崎明弘
三井文一
◎吉田健吉郎
(順不同)

◎は実行委員長



ごあんない

絵と人の出会いのサロン

つりすとギャラリー

〒231 横浜市中区港町2-9
関内駅前第2ビル近畿日本ツーリスト内
TEL. 045-662-2504



絵と陶芸

くれせんと美術店

ヨコハマ画廊組合加盟
横浜市中区弁天通1-19
〒231 ☎ (045)201-8850

絵画・彫刻・工芸

Le Galerie des Beaux-arts
せんたあ画廊

〒231 横浜市中区真砂町3-33
関内駅前横浜センタービル4階
電話 045(651)1431(代)・045(662)2937(直)

Modern and Contemporary Art

企画展 県美術展受賞者シリーズ

井上 麦(彫刻) 東谷 武美(版画)

藤樺 正(写真) 利渉重雄(版画)

鍔本 純一(洋画) 李 赫(彫刻)

鶴見厚子(洋画) 高垣秀光(版画)

加藤 聖個展(版画) 10/19~10/26

松原 賢個展(洋画) 10/27~11/2

五島三子男個展(立体) 11/3~11/8

難波京子個展(立体) 11/10~11/15

加藤安佐子個展(洋画) 12/3~12/13

黒川 洋個展(洋画) '62 3/15~3/22

佐々木英夫個展(版画) '62 3/25~4/4

大庭明子個展(版画) '62 4/19~4/28

植田曠躬個展(洋画) '62 予定

永井ひとみ個展(デザイン) '62 予定

勝又豊子個展(立体) '62 予定

河口 聖個展(版画) '62 予定

天野純治個展(版画) '62 予定

藤田修個展(版画) '63 予定

泉谷淑夫個展(洋画) '63 予定



彩林畫廊

Sairin Gallery

●常設・企画画廊

●オープン・スペース

壁面総延長=27.50m

天井高=2.70m

面積(床ACフロア)=45.70m²

1日 ¥30,000(観賞制有り)

〒231 横浜市中区日本大通60(朝日生命ビル1F) 045(651)2524

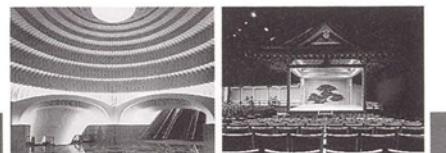
庭園と日本古陶磁
箱根美術館

休館=毎週木曜日（祝日は開館）年末・年始
開館時間=9:30AM~4:00PM（入館は3:30PMまで）
観覧料=大人500円 高・大学生300円
小・中学生200円 団体割引は20名以上
住所=神奈川県箱根町強羅1300
TEL (0460)2-2623



壮大な建物、ユニークな施設
MOA美術館

休館=毎週木曜日（祝日は開館）年末・年始
開館時間=9:30AM~4:00PM（入館は3:30PMまで）
観覧料=大人1,300円 高・大学生700円
小・中学生500円
団体割引は20名以上
住所=静岡県熱海市桃山町26-2
TEL (0557)84-2511



I Y
N O
T K
E R H
A M
U S
O N



POR TA



FAUCHON

フランスを鑑賞 フォション「アップルティ」

フォションはパリ・マドレーヌ広場で味を誇る
高級食料品店。紅茶・コーヒー・スパイス・パン・
ケーキ・瓶詰・缶詰…そのひとつひとつにフランス
の味の文化が集約されています。
特に紅茶では香りの高いアップルティが人気。
タカシマヤだけでおもとめいただけます
●フォション・アップルティ (250g) ……3,500円

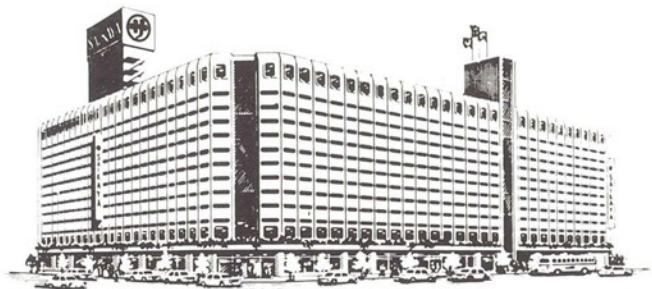
 **Takashimaya** YOKOHAMA

知性は気まuggな旅人です。

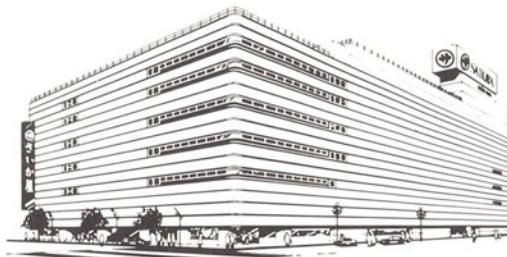
わたくし最前線

The DIAMOND
YOKOHAMA

よい品にまごころそえて 豊かな暮らしのお手伝い。



●川崎店 044・211・3111 〒210 川崎市川崎区小川町1



●横須賀店 0468・23・1234 〒238 横須賀市大滝町1-10



さいか屋

川崎店・横須賀店

水曜定休

世界のファッショント文化のプラザ



●藤沢さいか屋 0466・27・1111 〒251 藤沢市藤沢555



三越グループ

藤沢

さいか屋

水曜定休

若い仲間のファッショントロード
ジョルナ



●町田ジョルナ 0427・23・2531

〒194 町田市原町田6-6-14



MACHIDA
JORNA

第2・3水曜定休

Autumn Fashion '86

街の尊は モダンフェミニン



横浜
松坂屋

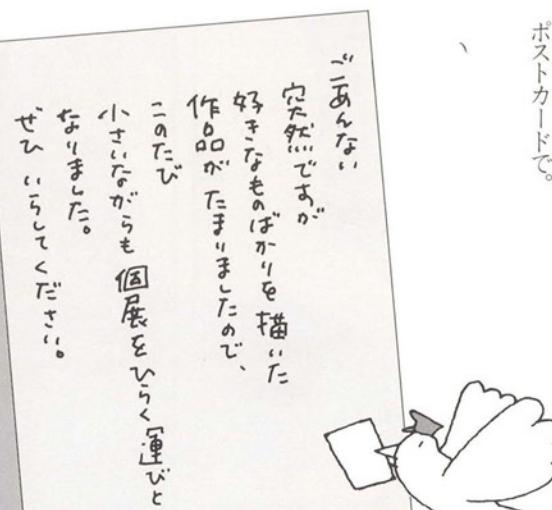
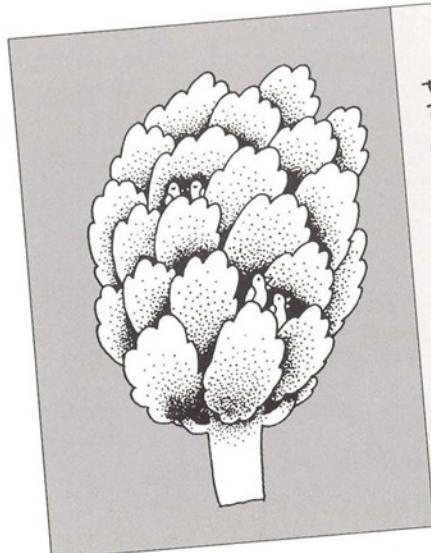
イセザキ・モール
電話 261-2121 水曜定休

NINA RICCI
■本館3階



ライブプリント
キヤンバーン価格
おおきなライブ 5
一枚 50 円

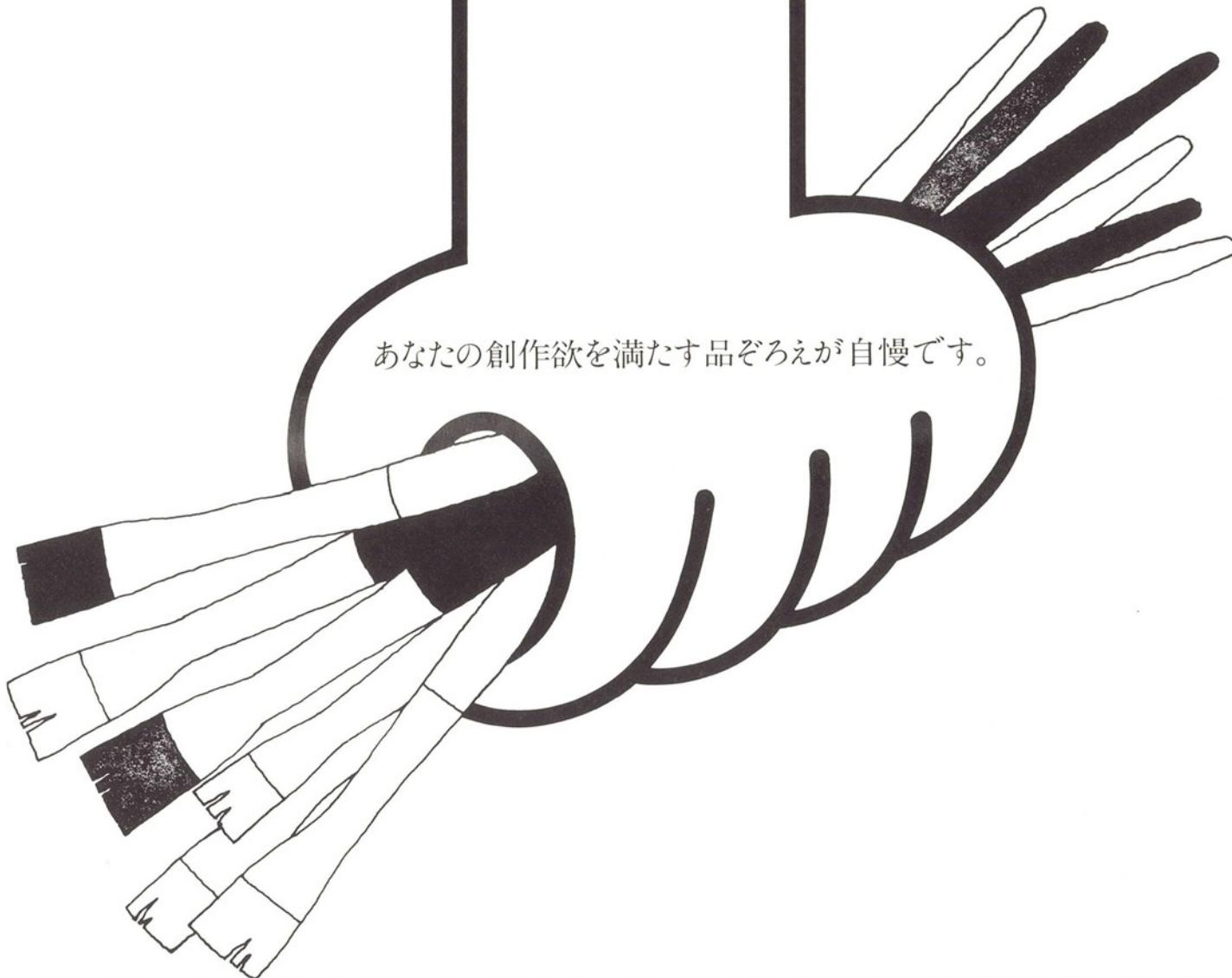
ポストカード
1コマから
1枚 80 円



UCHUDO

●洋画材料●デザイン用品●額縁

あなたの創作欲を満たす品ぞろえが自慢です。



ALL OF ART MATERIAL

宇宙堂

横浜店 横浜ステーションビル・シアル 4 F TEL 045-311-2770

蒲田、仙台、千葉、津田沼、船橋、荻窪、静岡、松戸、他全15店舗



心のこもったお付き合い

頼んでみればわかります。
美術品取扱い専門の会社です。
安心してご利用下さい。

業務品目

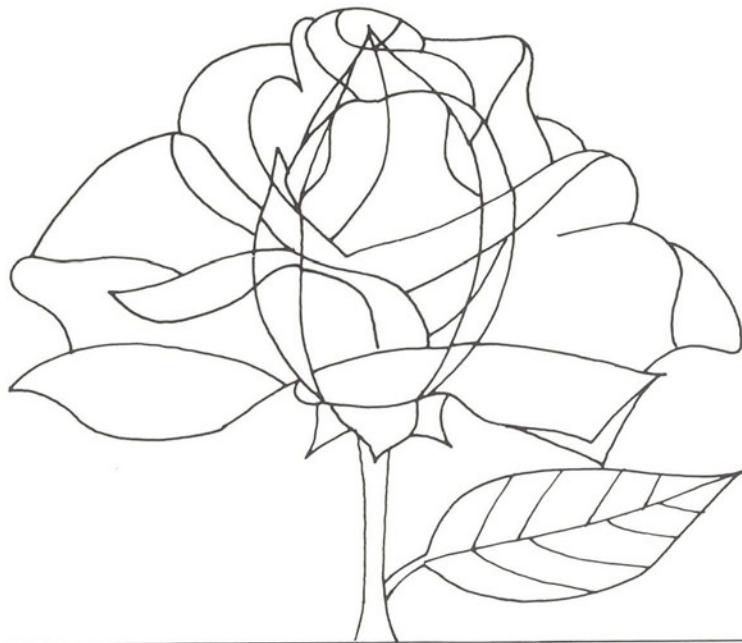
- 展覧会 搬入・出代行
- 展示・陳列
- 貸額縁
- 画材販売(ロールキャンバス・木枠・額縁等)
- 展覧会 案内状・画集制作
- 地方発送(海外発送含) etc

有限会社
アートサービス

電話受付時間

月曜～土曜 AM10:00～PM6:00
日曜・祭日・上記以外の時間は 留守番電話にて承ります。

財団法人 神奈川県美術奨学会



■美術振興基金募集

当法人は、県内の美術振興と新人作家の発掘・育成を目的として昭和45年に設立、以後毎年「神奈川県美術展(神奈川県・神奈川県美術展委員会主催)」に出品された優秀作家に奨学金(美術奨学会費)を給付していますが、基金を増額し、更に意義ある奨学金といいたしく篤志家の御寄付をお願いしております。

皆様方の御協力をお願い申し上げます。

なお、寄付金は、基金に繰り入れさせていただき、この基金の運用金(利子)から奨学金として給付されます。

■■■■■事務局(申込先) 横浜市中区日本大通1 県庁文化室内 ☎045-201-1111 内線3425■■■■■

発 行 神奈川県美術展委員会
事務局：神奈川県県民部文化室
表紙デザイン 伊東 寿太郎

